

Project Report

パソナルギャラリー 2015





ごあいさつ

パラソルギャラリーは、文化の香り彩る魅力的な街を市民の手でつくってほしいという目的で、平成12年から始められました。平成23年度からは運営に市民が参加し、翌年には実行委員長に市民が選出されるなど、現在は積極的な皆さんの参加によって運営がされています。

当日は、今年度のテーマである「市民がつくるアートCITY 千葉」に相応しく、作品展示と共に来場者の方々がその場でアート体験を出来るわくわく工房など行いました。また、過去最多となる両日合計出展者107組、来場者約14,000人の方が手づくりアートに触れることで、文化を介し都市景観や賑わいを考える2日間となりました。

報告をまとめるにあたり、パラソルギャラリーに様々な形でお力添えいただいた多くの方々に改めてお礼を申し上げます。

2016年2月
 パラソルギャラリー実行委員会
 委員長 山崎美音

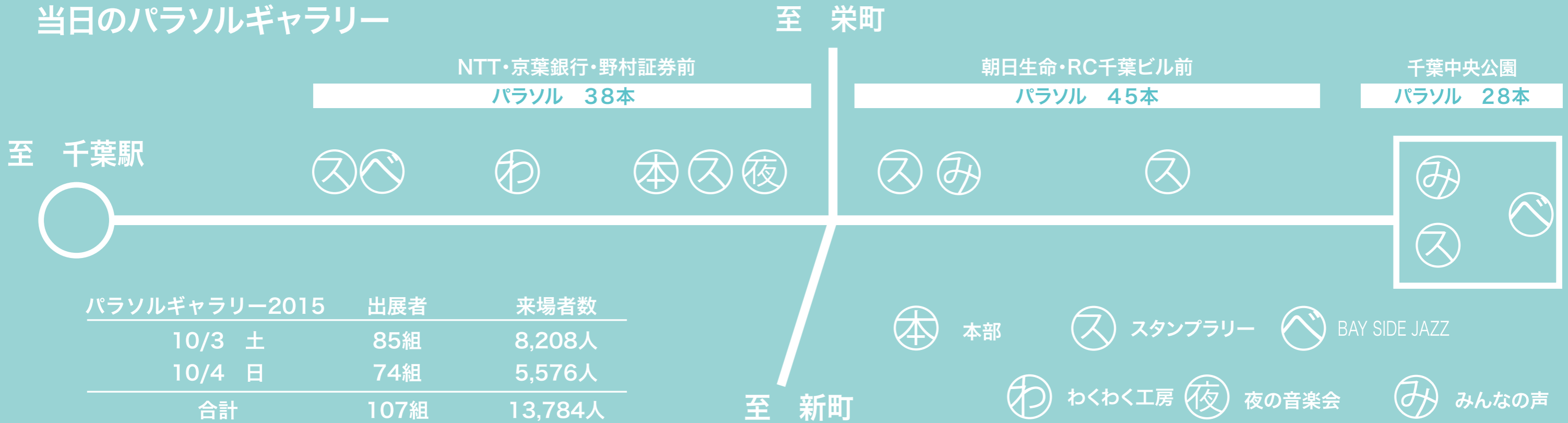
開催概要

- 開催日
 10月3日(土) 10:00 ~ 19:30
 10月4日(日) 10:00 ~ 18:30
- 開催場所
 千葉駅前大通り — 千葉中央公園
- 同時開催
 10月3日(土) BAY SIDE JAZZ
- テーマ
 市民がつくるアートCITY 千葉

CONTENTS

■ 当日のパラソルギャラリー 3	■ 夜パラ・夜の音楽会 9
■ わくわく工房 5	■ BAY SIDE JAZZ 10
■ みんなの声 6	■ 千葉駅前大通り景観形成推進協議会 11
■ スタンプラリー 7	■ 広報活動 12
■ パラソルカフェ 8	■ 会計決算報告 13

当日のパラソルギャラリー



パラソルギャラリー2015	出展者	来場者数
10/3 土	85組	8,208人
10/4 日	74組	5,576人
合計	107組	13,784人

開催成果と課題

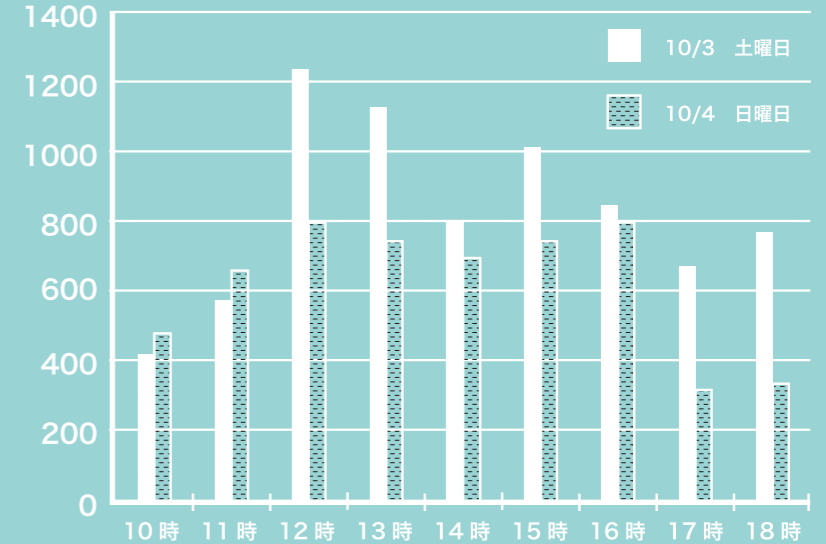
広報活動の効果が反映され、過去最多となる107組の出展者が応募した。三越ビル前の工事も重なったため出展範囲が従来のもものでは足りなくなってしまった。そこで千葉中央公園の一部を利用することで、場所不足を解消し、駅と公園を繋ぐパラソルの回廊をつくることができた。配置はバランスよく企画や音楽系の出展を分散することによって、全体として一貫性のある雰囲気創られた。当日は両日も晴天に恵まれ、来場者も13,784人を記録し過去最高となった。

課題としては大きく2つの点が挙げられる。まず1点目は出展者数の制限である。今年度は明確な制限を設けずに期限内の全応募を受け付けたが、今後も希望者の増加が見込まれるため、100組前後に制限をしそれを超えた時点で出展応募を打ち切る必要がある。2点目は、歩行空間の確保である。当日は多くの人が来場し、展示空間で滞留していた部分も多くあったため、歩行空間が狭くなった箇所が見られた。来年度以降は巡回スタッフがさらにしっかりとした歩行空間確保のための誘導を行うほか、人が滞留しても歩行に十分なスペースを確保できる配置を検討していく。

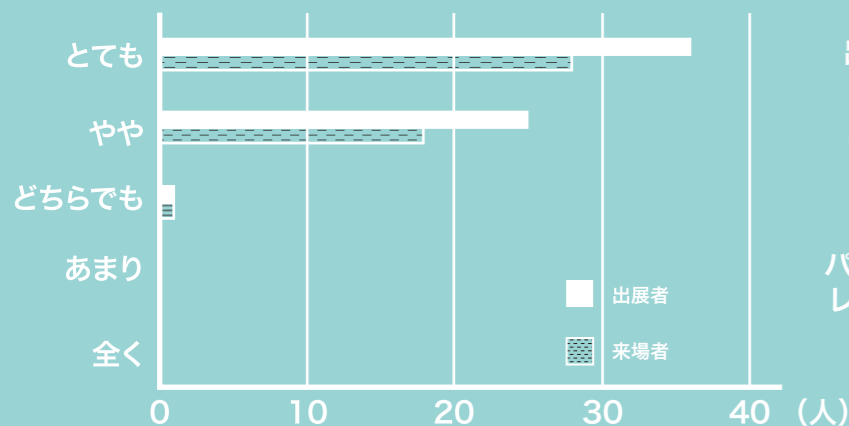
アンケート結果から

アンケート結果から、パラソルギャラリーが千葉駅前大通りの景観のイメージアップに寄与していることがわかった。また、街の景観を考える中心となっていくべきなのは、出展者の場合は行政と地元住民が、来場者の場合は特に地元住民であると考えている。さらに、売買についての意識は、年々フリーマーケット感覚でいいと考える人が増えている傾向にある。今後ともパラソルギャラリー本来の趣旨を忘れないような運営・PRの仕方が必要である。(有効回答件数/出展者:63件 来場者:47件)

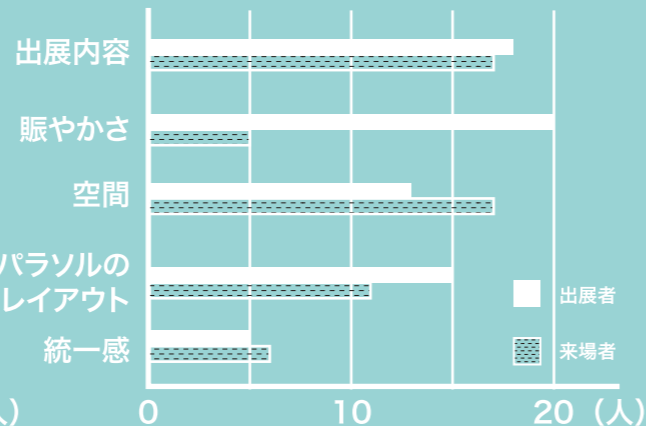
(人) パラソルギャラリー来場者数 推移



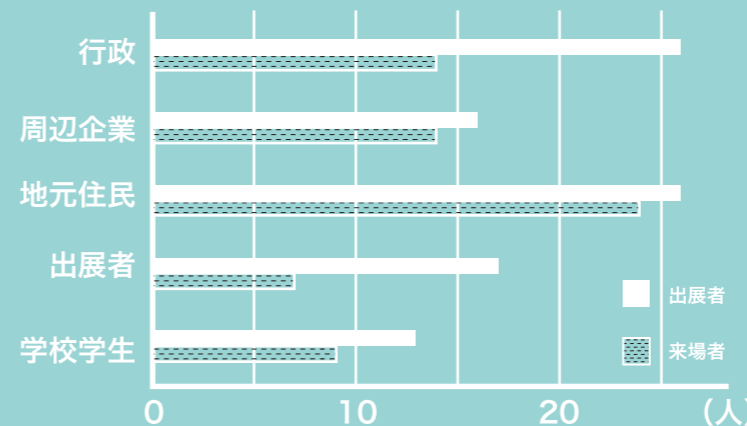
都市景観のイメージアップに効果があるか



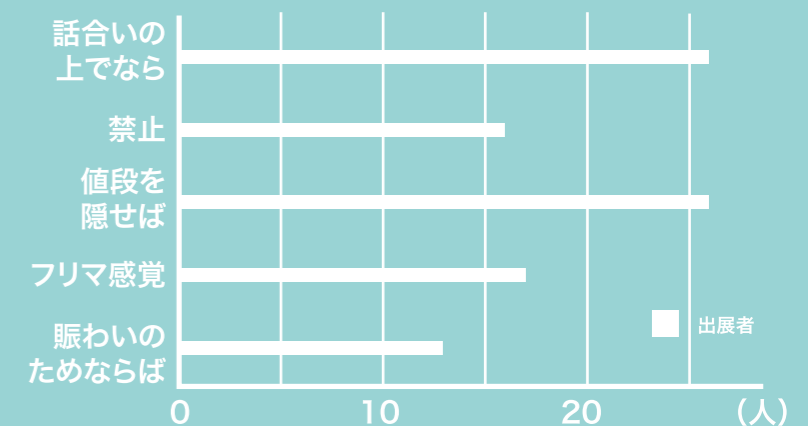
パラソルギャラリーの内容に対し印象深い点



都市景観考える機会を増やすには、誰が中心となって動くべきか



売買についてどう考えるか





わくわく工房

出展者が先生になり、来場者と一緒に作品づくりを行う当日企画である。主な目的は、出展者と来場者が交流するきっかけづくりと、来場者に作品をつくる楽しさや難しさを共有することである。

具体的な出展内容は以下の6種類だった。

- ①マイ箸 ②コースター ③クリアファイル ④粘土アート ⑤トートバッグ ⑥ワイヤーアート

1日目は5つの工房が出展し54人の来場者が、2日目は3つの工房が出展し25人の来場者が作品づくりを楽しみ出展者と交流を深めた。事前にわくわく工房出展者同士が交流会を行い、さまざまな取り決めを話し合う機会を設けた。市民が主体として今後この企画を行っていくことを念頭に置いていたからである。今後もこの企画を続けていく上で更に出展者自身で行えるような状況にしていきたい。

反省点として、情報の発信が不足していたことが挙げられる。SNS等で情報を頻繁に発信して欲しいという意見が出展者や来場者からでた。そのため、「わくわく工房とはこのような企画、参加者募集しています」といった具体的な情報発信が必要である。

また、わくわく工房の目的の1つに「ものを作る楽しさを知ってもらおう」ということがあるが、その評価が行われていないため、企画自体の意義や反響が実行委員会で共有できていない。今後は何か評価基準やアンケートなどの方法で市民からの反応を読み取り、企画の展望に活かしていきたい。



写真をツールとして、街の声を表出することを目的とした企画である。来場者や出展者に千葉の街をテーマにした質問をし、それに対する回答をホワイトボードに書き、写真を撮った。街を歩く人がこの写真を見て、街の印象や良いところを共有することを目指した。

今年度のみんなの声は、たくさんの声を集めより多くの人と声を共有するという目標から、拠点を2箇所に設置した(前頁配置図を参照)。

また以下の3つの内の1つの質問に答えていただく形式を取った。

- ①千葉でおすすめのお店を教えてください。
②千葉の好きなところはどこですか?
③あなたがまちづくりに関してできることは?

当日は幅広い世代の多くの人から声と写真が集まり、みんなの声のブースで立ち止まって見ていただくことができた。ホワイトボードに回答を書いてもらってから写

真を撮ることで、写真に直接書くよりも文字が書きやすく、より多くの人を対象に行うことができた。

改善すべき点は大きく2つある。1つ目は回答しやすい質問内容に偏ってしまったところである。もっとキャッチーだが意図が汲み取れる質問を考えていこうと思う。2つ目は写真の管理と分析である。撮った写真をカウントせずに欲しい人には渡していたため、トータルで実施した数字が不明になってしまった。また、写真の管理が確実に行われず紛失してしまったため、街の印象等の分析が行えなかった。この2点はしっかりと改善案を検討し、来年度の実施に活かしていきたい。



みんなの声





スタンプラリー

パラソルギャラリーの会場全体を回遊してもらうこと、来場者と出展者の交流を促すこと、子どもから大人まで楽しんでもらうことを主な目的として行われた。いろいろな世代の方がスタンプラリーをきっかけに交流を深めることができていた。

景品獲得までは

- ①本部などでスタンプラリーの用紙をもらう
- ②会場内5カ所に設置されたスタンプを集める
- ③5つ埋まった用紙を本部でスタッフに提示する
- ④景品写真から好きな景品を選び、スタッフから景品引換券をもらう
- ⑤パラソル番号を頼りに直接その景品の出展者のもとに行き、景品を受け取る

という流れで実施した。景品写真は当日受付後、準備のできた出展者から順にチェキで写真を撮りコルクボードに貼ったが、写真を撮るスタッフの人数に対して撮らなければならない写真の数が多く、スタンプラリー開始

時までには全ての景品写真を撮り終えることができなかった。また、引き換え開始後、チェキの写真が見にくいという来場者からの声が多く、景品を選ぶのに時間がかかり引き換えをスムーズに行えなかった。

以上の反省点を踏まえ、来年度は会議の時に出展者に景品を持ってきてもらいその場で写真を撮り、その時に用意できなかった景品のみ当日撮るようにするなどの変更が必要である。また、チェキではないカメラを使うことも検討すべきである。全世代に楽しんでもらうことや来場者と出展者の交流を促すことなどの目的は達成されたので、来年度はスムーズに運営できるように改善し更に良い企画となることを目指す。



パラソルカフェは公共空間の休憩スペースの充実による賑わいの創出を主旨としたオープンカフェである。都市空間に座ってつろぐことで、何気なく接していた千葉の街を意識して、愛着を持てるような場所になることを目指した。

パラソルカフェでは飲み物と菓子を販売した。昨年度までは飲み物みの販売であったが、軽く食べられるものも欲しいという声から、今年度は菓子の販売も行った。また配置に関して、昨年度は販売カウンターを休憩スペースの奥に設置したため、動線部からの認識がしばらく気づかなかったという声が聞かれた。そのため今年度は販売カウンターを動線部に沿う形で設置し、利用を促した。同様にカフェの宣伝効果を求めてのぼりの製作も行い店頭で設置した。休憩スペースに関しては、パラソルギャラリーの雰囲気に合ったゴミ箱を自主製作するなどして、カフェ空間の充実を図った。

結果として、売上は13,380円と昨年度の6,720円の倍近い売上を得ることができたが、休憩スペースの利用者は未だ少なく感じられた。従って来年度に向けては休憩スペースの利用を促す配置計画、動線計画、空間の充実が必要であると考えられる。休憩スペースでは昼間にプロのアーティストによる演奏会、夜間に夜の音楽会を開催したが、それによる休憩スペースの喪失も問題としてあげられ、それら2つの企画との配置計画に関する協議も必要である。

今後とも街を歩く人々にとって居心地のいい休憩スペースを提供できるよう検討したい。



パラソルカフェ





夜パラ・夜の音楽会

夕方以降の街の彩りと賑わいの促進を目的として、パラソルを暖色系のライトで照らし、普段と違う大通りを演出する夜パラと夜の音楽会を行なった。1時間の開催となったが多くの来場者が足を止め、昼の光景とは違ったパラソルの下で秋の夜長を楽しんだ。

今年度の夜パラは経費削減のため電気工事の範囲を去年より若干縮小して開催した。電気工事の範囲外のパラソルについてはLEDライトを用いてパラソルを点灯し、夜パラの雰囲気をつくり出した。しかしLEDライトの明るさが足らず、電気工事を行った範囲と比べて暗い印象になってしまった。今後は工事が行えないこの範囲のパラソルをどうしていくのが検討事項である。また、電気会社と当日の作業の流れや場所なども丁寧に打ち合わせしなければならない。当日の打ち合わせ場所や時間の共有が明確にできず時間のロスがあったため、その部分のミスをなくすことで、今後はスムーズに実施できるだろう。

夜の音楽会ではメインステージを一か所にし、その周辺にカフェやパラソルを集めてできるだけ多くの人々が聞くことのできる環境をつくった。当日は多くの人々が滞留し演奏を楽しんだ。

反省点として、演奏者への連絡や現場での計画実行がスムーズに行われなかったことが挙げられる。2ヶ月前からオファーを行い、実施に向けて計画を進めていたが、機材や配置の詳細についての情報共有や、当日の現場での意思疎通が不足していた。今後は、詳細な計画をできるだけ詰められる期間を考え、逆算することでオファーの時期や現場でのデモンストレーションを行っていきたい。



BAY SIDE JAZZ CHIBAは、プロ・アマチュアのジャズマンが千葉の街なかで演奏を繰り広げるジャズの祭典である。10月3日のメインイベント「ジャズストリート」ではプロミュージシャンが、中央公園や駅前大通り等ではアマチュアミュージシャンが出演した。

パラソルギャラリーでは街の賑わい創出を他のイベントとの連携によっても行っている。昨年度まではBAY SIDE JAZZのほか、三越千葉店の前で行われる三越カフェとも同時開催を行っていたが、今年度は三越ビルの外装工事と日程が重なっており、BAY SIDE JAZZのみとの同時開催となった。

前記の配置図で示すように、BAY SIDE JAZZの特設ステージが中央公園に設置された。また、千葉大学のジャズ研究会が京葉銀行の前でパラソルの下で演奏を行い、千葉駅側から来る来場者を音楽で迎え入れるような配置とした。意識せずに文化に触れられる音楽という

要素をパラソルギャラリーの玄関部に設けられたことが、過去最大の来場者を記録したことに繋がったと考えられる。

今後の検討事項は、人の動線を確保することが挙げられる。スタッフを周辺に配置し声がけをすることで、歩行空間の確保に努めたものの、音楽を聴く人が京葉銀行の前に集まることで賑わいを演出する反面、歩行者用の動線を時々狭くしてしまった。来年度以降はBAY SIDE JAZZとの事前打ち合わせで、別の解決法や演奏時間とスタッフの配置について検討していく。



BAY SIDE JAZZ





千葉駅前大通り景観形成推進協議会

千葉駅前大通り 景観形成推進協議会



私たちは「誰からも愛される」「親しみのある」千葉駅前大通りの形成を目指して活動しています。



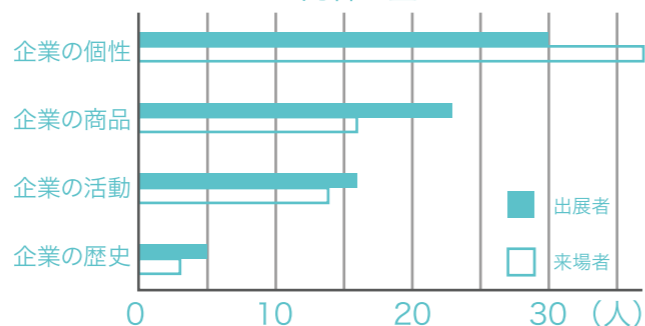
今年度のパラソルギャラリーも千葉駅前大通り景観形成推進協議会に協賛を頂いた。同協議会は「誰からも愛される」「親しみのある」駅前大通りの形成を目指して活動している。今後とも大通りの企業の方々とともに、街のイメージをつくる取り組みを行っていく。

今年も同協議会のパンフレットとポスターを作成し、パラソルギャラリーに来場した方々を始めとした、街を歩く人にPRを行いアンケートをとった。結果から、多くの来場者や出展者が沿道企業の参加を求めている。また、沿道企業の参加方法として、どのような内容を取り上げてほしいかという質問に対しては、主に企業の個性が出た展示や企業の商品、企業が行っている活動を出してほしいという声が多く聞かれた。大通りを中心とした企業の今を知りたいということが考えられる。パラソルギャラリーの趣旨から外れないような、企業の展示を行えるように今後とも協議していきたい。

また、千葉駅前大通り景観形成推進協議会は街の変化

とともに、参加企業も変わっている。今年度の10月時点でも昨年度から数企業が変わったが、来年以降は改めて現在参加している企業の紹介や、同協議会の変遷などを街を歩く人に知ってもらえるような展示にしたいと思う。

沿道企業の参加方法として
どのような内容が望ましいか

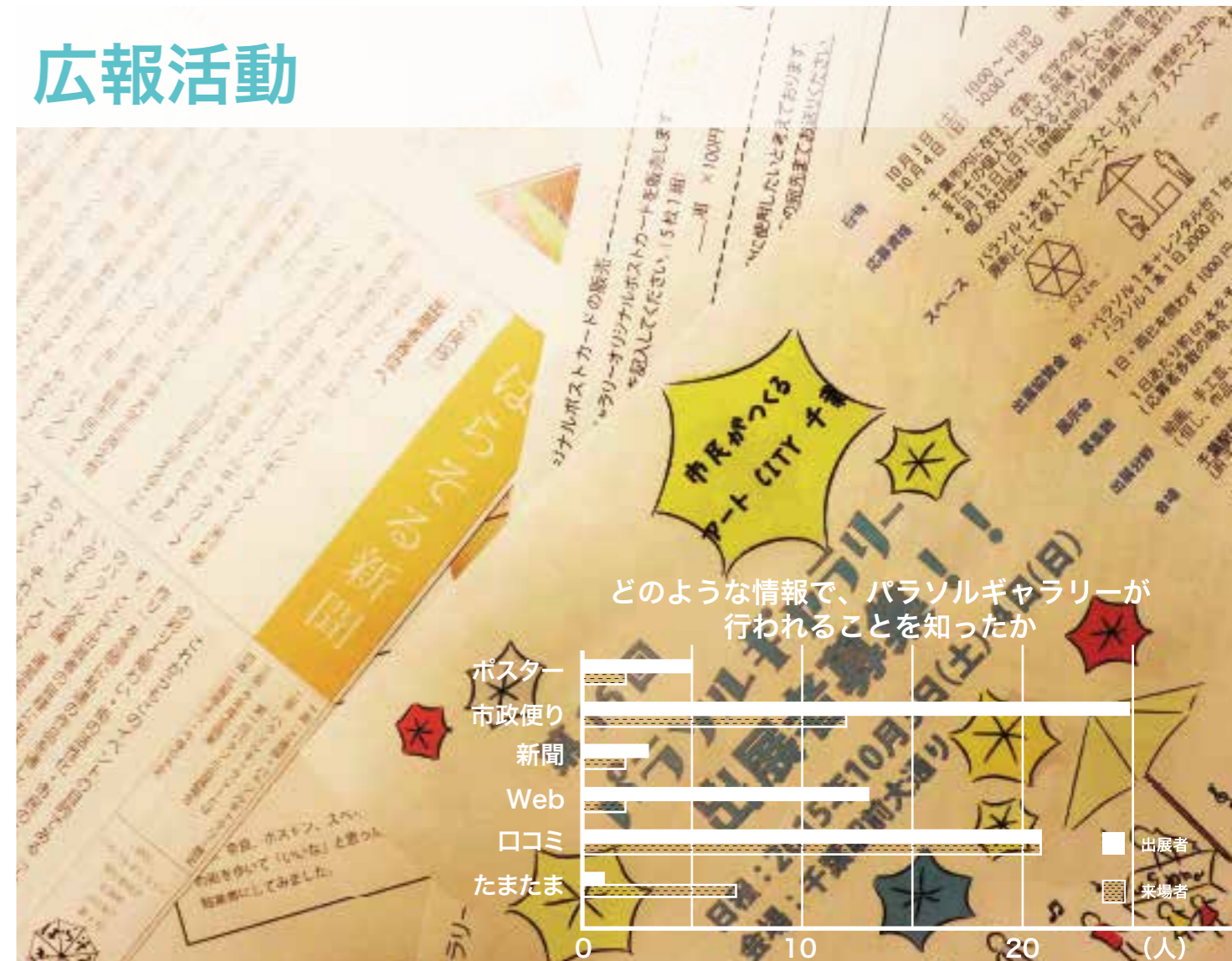


パラソルギャラリーがいろいろな人に認知され、多くの人々が来場して市民のつくり出す文化に触れてもらう場となるように、実行委員会では幅広い広報活動をしている。市民が運営に参加して以降、幅広い様々な広報方法が実行され、徐々にその成果が見えてきている。

今年度は「千葉市」に根付いた広報活動を行うことで、パラソルギャラリーの知名度を上げることができた。例年、ポスター、ポストカード、フライヤーをスタッフや出展者で手分けして配ることが主な広報の活動であったが、今年度は千葉市内にあるフリーペーパー及び地域新聞に着目し、プレスリリースを行うことで活動の幅を広げた。結果として8誌に開催の概要、及び当日の様子を掲載された。そして、今年度から千葉市民活動支援センターに団体登録をし、パラソルギャラリー実行委員会が千葉市の住民参加の活動であることを「ちばサポート通信」という冊子に掲載され、実行委員会の活動そのも

のを千葉市民の方々に伝える第一歩となった。その反面、昨年度から始めたSNSを利用した広報を改善が図れないまま、開催当日を迎えてしまった。写真やコメントを載せやすいFacebookの更新に偏りすぎたためにHP、blog、Twitter、へ掲載される記事が極端に減ってしまったことで、それぞれが連携できずに情報ツールとしての役割を果たすことができなかったため、検討していきたい。来年度以降の広報活動は、スタッフで綿密な会議を重ねた上で、「パラソルギャラリー」を今年度よりも多くの人に伝える方法を模索していく。

広報活動



会計決算報告

今年度も収入の面で、千葉駅前大通り景観形成推進協議会を始め、千葉市内の5団体からの協賛金と千葉市からの補助金といった形で支援を頂き、パラソルギャラリーを開催することができた。

2015年度 支出の部

支出項目	支出額
電気工事代	135,000
展示台レンタル代	173,880
夜間警備代	71,280
資料送付代	68,650
携帯電話代	29,463
パラソル購入代	188,280
みんなの声	25,050
パラソルカフェ	29,987
わくわく工房	2,580
夜パラ備品代	2,376
企画その他費用	6,231
広報物印刷代	62,140
ポストカード代	3,255
会場設営備品代	4,101
ホームページ作成代	11,800
飲み物・弁当代	68,033
レンタカー代	53,880
ATM手数料	5,724
懇親会費一部負担	50,000
その他経費	24,000
支出合計	1,015,710

再来年度は千葉市の補助金が受け取れなくなることが予想されており、今年度からさまざまな点で来年度以降の予算確保への工夫や改善を行った。

まず個人あたりの出展料の見直しである。これまではパラソル一本につき1500円の出展料だったが、今年はこれを2000円に値上げした。この値上げがあったものの、出展者数は増加したため値段設定は妥当だったと思われる。

また、今年度から実験的にパラソルの貸出を行い使用料を徴収した。財源を増やすことで、資金不足を補っていく予定である。

さらに、両日とも晴天のもと開催されたため、予想通

2015年度 収入の部

項目	収入額
協賛金	220,000
出展料他当日料金	511,500
パラソル貸出代金	23,900
千葉市補助金	120,000
前年度繰越金	319,644
預金利息	26
収入合計	1,195,070

協賛金 内訳

協賛団体	協賛金額
千葉駅前大通り景観形成推進協議会	150,000
千葉市職員労働組合	20,000
千葉市葉基会	20,000
千葉市風月会	20,000
千葉都心部親睦会	10,000
協賛金合計	220,000

2015年度 義援金

項目	義援金額
円空彫「木耕の会」	60,414
宮間秀樹	7,575
和を楽しむ会	500
渡辺薫	1,226
来場者	3,511
わくわく工房 収入	15,800
パラソルカフェ 収入	12,540
義援金合計	101,566

りの出展料を収入として得ることができた。これをもとにパラソルを始めとした備品の購入を今年度行い、来年度以降も使えるような備品体制を整えた。

補助金の打ち切りや協賛団体の減少など、収入面での問題は多くあるが、今後とも前述のような対策が必要である。

東日本大震災で被災した地域への義援金は今年度101,566円集まった。まだまだ復興への意識が根強く残っていることが想像できる。昨年度まで義援金を寄附していた香取市は義援金の窓口を閉じたため、今年度は全額を旭市に寄附した。来年度以降も震災復興への義援金を募っていく。



パラソルギャラリー実行委員会

委員長 山崎美音 副委員長 北村治雄 顧問 北原理雄 郭東潤 松本勵治

市民運営スタッフ

豊田信子 関野利夫 野田忠夫 石橋武雄
 東山昌秀 荒生あかね 鈴木富江 奥平純子
 後藤雅己 結城保 渡辺薫 松田正美
 島根一郎 小林由起子 由井良昌 和田守仁
 芹澤正恵 蘇武裕幸 齋藤伊久太郎

学生運営スタッフ

長田滉央 坂本心平 都木雅也 佐々夏来
 金光大介 今泉ひかり 高橋美音 阿部紘也
 覚張郁美 柴田智成 鈴木寿明 小島啓輔

協力:千葉市

大木戸孝也 泉圭輔

パラソルギャラリー 2015

主催/パラソルギャラリー実行委員会 後援/千葉市 協力/千葉大学
協賛/千葉駅前大通り景観形成推進協議会 千葉市都市部親睦会
千葉市風月会 千葉市用機会 千葉市職員労働組合

